

関西演芸協会とは

関西演芸協会は設立65周年を迎えた所属芸人約260名の団体です。
所属芸人の落語・漫才・諸芸を披露する寄席を開催することで上方演芸の伝統を
後世に伝えていく活動をしています。

寄席の楽しみ

寄席とは、落語・講談・漫才・浪曲・太神楽など、おもしろいお話を聞かせてくれたり、
あっと驚く難しい技などを見せてくれるところです。大阪や東京にはそんな演芸を
一日中、何十人もの方が披露する寄席小屋という場所があります。関西演芸協会
のメンバーも、普段は関西のそういった寄席を中心に様々な場所で活躍しています。
寄席ではいろんな演芸を楽しめますが、やはり最も代表的なものが落語です。

落語には大きく分けて、東京を起点とする「江戸落語」と大阪を起点とする「上方落語」
があります。言葉も《江戸弁》と《大阪弁》に分かれ、それぞれがその発祥から生
まれたと思われる特徴を持っています。関西演芸協会の落語家は上方の落語家です。
もともと上方落語の発祥は大道芸であったと言われています。縁日などで、屋外で人
を集めて語り聞かせながら物を売る商人たちと同じく、道を通る人々の注意を引か
なければなりません。当然の事ながら上方落語は派手で陽気になっていきます。そ
のなごりが現在も「見台」(小机)と「小拍子」として残り、話の節目で小拍子を見
台に叩きつけて音を出し、注意を引き、話題の転換や場所の移動を表現するのに用
いられています。また、動きが派手で着物の裾が乱れるところから「膝隠し」を立
てて膝を隠すという習慣も今もなお残っています。

『百聞は一見に如かず』。今回はそんな落語だけでなく、漫才・太神楽に児童・生
徒による参加コーナーを含めた寄席を皆様にご覧頂きます。

お楽しみに!



令和5年度
—学校巡回公演事業—
関西演芸協会
〈演芸公演〉



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、
子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの
豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、
将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。
また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

よ せ かん しょう きょう しつ たのしい 寄席鑑賞教室

落語の舞台はとてもシンプルです。座布団の上の70cm四方の空間が世界の全てです。それでも演者の表現力と観客の想像力が重なれば、それは無限の空間へと広がって行くのです。さらに江戸落語と上方落語、同じ笑いでありながら伝承や発展の違いで、異なる面白さへと発展していった二つの笑いを聞き比べてください。笑いの向こうに文化が見えます。観客の空気や雰囲気を読み、その場で創りあげていく一回性の芸術、落語。台本はあっても同じ芸は二度と見ることは出来ません。その日、その時、その場集った、皆さんのためだけにつくられた寄席芸の神髄をお楽しみください。



よ せ ばやし 寄席囃子

江戸時代に上方で発祥したと言われ、寄席で用いられるはやしぜんばん、さくご、かとうしや、なでばやし、はなし、なか、こうかおん、つか、のち、しゃみせん、ふえ、たいこ、どら、なごせいのり。主に三味線・笛・太鼓・銅鑼などで構成されています。

らくご はめもの落語

はめもの落語とは落語を演じる落語家の語り口に合わせて、はやし、かた、こうかおん、えん、さくご、かとうしや、なでばやし、はなし、なか、こうかおん、つか、のち、しゃみせん、ふえ、たいこ、どら、なごせいのり。賑やかで華やかな臨場感溢れる落語をお楽しみください。

いろもの 色物

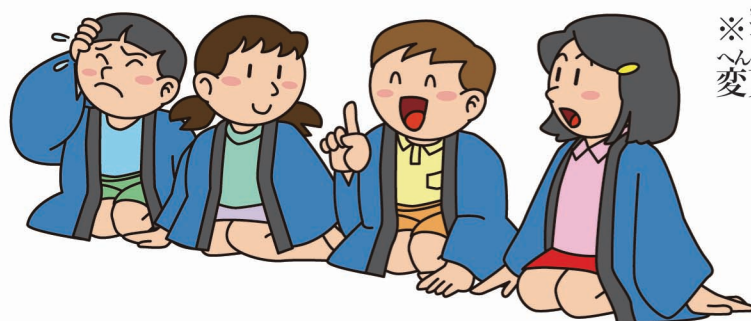
寄席において、落語と講談以外の演目を指します。むかし寄席のめぐりで落語・講談の演目を黒文字で、それ以外の演目は朱色などの色文字を使って書かれていたことに由来します。

漫才(まんざい): 平安時代に新年を祝う言祝の芸能であった「千秋万歳」が笑いを主とする芸能に変化していきました。

江戸時代には「万才」として興行化されたと言われています。

太神楽(だいかぐら): 元は、神仏への奉納として舞われてきただいかぐら、だいでうけい、えん、かた、こうかおん、えん、さくご、かとうしや、なでばやし、はなし、なか、こうかおん、つか、のち、しゃみせん、ふえ、たいこ、どら、なごせいのり。華やかな小道具を使って言祝ぐ、日本古来の伝統芸能です。

しゅつ 出	えん 演	えん 演	もく 目	ない 内	よう 容
				まんざい いろもの 「漫才」(色物)	かみがたえんげい とくちやう い まんざい たの 上方演芸の特徴とも言うべきおしゃべり漫才をお楽しみください。
				よ せ はやし きょうしつ 「寄席・お囃子教室」	よ せ らくご しょうかい しゃみせん たいこ ふえしやう ひやうしぎ 寄席・落語の紹介や、三味線・太鼓・笛・鉦・ドラ・拍子木など、エピソードを交え、寄席の順番に従って演奏、解説をいたします。
				おおざり 「大喜利 アイウエオ作文発表」(児童・生徒参加コーナー)	ワークショップで学び、考えた、アイウエオ作文の児童・生徒の発表コーナーです。
				あなたも今日から漫才師	ワークショップで学び、考えた、漫才の児童・生徒の発表コーナーです。
				なかい きゅうけい 仲入り ~休憩~	
				だいかぐら いろもの 「太神楽」(色物)	だいかぐら にほん でんとうけいのう ふだん め こと かわいい わざ 太神楽は日本の伝統芸能です。普段あまり目にする事のない華麗な技の数々をご覧ください。
				まんざい いろもの 「漫才」(色物)	かみがたえんげい とくちやう い まんざい たの 上方演芸の特徴とも言うべきおしゃべり漫才をお楽しみください。
				らくご まんじゅうこわ 「はめもの落語(饅頭怖い)」	ひと きら もの にかて もの おとこ じぶん まんじゅう こわ どんな人にも嫌いな物・苦手な物があります。ある男が自分は『饅頭が怖い』と仲間たちに話し、それを聞いた仲間たちはちょっとしたいたずらをおも 思いつきます。いたずらされた男がどんな反応をするか、注目して下さい。



えんもく じゆんぼん とうじつ しゅつえんしや がっこう じやうきやう
※演目や順番は、当日の出演者や学校のご状況により 変更の可能性がります。